

## ワークショップ7

### 「クローン病の最新治療（痔瘻や短腸症候群を含む）」

司会 池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）

江崎 幹宏（佐賀大学医学部内科学講座消化器内科）

近年、クローン病 (CD) では種々の病態に即した治療薬剤が使用可能となってきた。中等症～重症 CD では、異なる作用機序を有する薬剤の登場により長期的寛解維持率の向上、術後再発率の低下が可能となってきた。また、短腸症候群により在宅中心静脈療法 (HPN) を余儀なくされていた長期罹患例では、GLP-2 アナログ製剤投与により HPN 離脱が可能な症例も散見されている。一方、東アジア人に多い肛門病変は患者の QOL 低下を招くが、ダルバドストロセルの有効性が報告され、長期的有効性の評価が待たれる。本ワークショップでは、CD に対する最新治療薬の治療効果や問題点をテーマにした幅広い演題応募を期待する。